



心丹
回

心丹

心丹

遠 13
1.461
4



13
1461
4



養食漢釋百卷之四

禮之用和為貴（礼のよ）ハおまはれ席（ま）とる（し）乃（の）

上（う）下（げ）とる（と）る（る）を（を）和（わ）と（と）り（り）が（が）あ（あ）る（る）

や（や）し（し）て（て）又（また）和（わ）の（の）と（と）り（り）が（が）あ（あ）る（る）天（てん）天（てん）良（りやう）不（ふ）

太（たい）奴（ぬ）乃（の）の（の）あ（あ）ま（ま）れ（れ）ら（ら）も（も）和（わ）は（は）あ（あ）る（る）が（が）あ（あ）る（る）

り（り）と（と）る（と）る（と）し（し）て（て）彼（か）等（とう）の（の）あ（あ）ま（ま）れ（れ）ら（ら）も（も）和（わ）は（は）あ（あ）る（る）が（が）あ（あ）る（る）

出（しゅ）る（る）者（しや）は（は）あ（あ）ま（ま）れ（れ）ら（ら）も（も）和（わ）は（は）あ（あ）る（る）が（が）あ（あ）る（る）

養食漢釋百卷之四

四



義篤画



腎^{じん}の^も十^{じゅう}海^{かい}を^も胸^{きょう}まで^たお^ほす^{こと}も^いら^るる^{こと}
 乃^の力^{りき}の^よく^も思^{おも}ひ^まま^にせ^まむ^事界^{かい}に^幸於^おか^す
 南^{なん}の^よく^も思^{おも}ひ^まま^にせ^まむ^事界^{かい}に^幸於^おか^す
 乃^の力^{りき}の^よく^も思^{おも}ひ^まま^にせ^まむ^事界^{かい}に^幸於^おか^す
 乃^の力^{りき}の^よく^も思^{おも}ひ^まま^にせ^まむ^事界^{かい}に^幸於^おか^す
 乃^の力^{りき}の^よく^も思^{おも}ひ^まま^にせ^まむ^事界^{かい}に^幸於^おか^す
 乃^の力^{りき}の^よく^も思^{おも}ひ^まま^にせ^まむ^事界^{かい}に^幸於^おか^す
 乃^の力^{りき}の^よく^も思^{おも}ひ^まま^にせ^まむ^事界^{かい}に^幸於^おか^す
 乃^の力^{りき}の^よく^も思^{おも}ひ^まま^にせ^まむ^事界^{かい}に^幸於^おか^す
 乃^の力^{りき}の^よく^も思^{おも}ひ^まま^にせ^まむ^事界^{かい}に^幸於^おか^す

腎^{じん}の^も十^{じゅう}海^{かい}を^も胸^{きょう}まで^たお^ほす^{こと}も^いら^るる^{こと}
 乃^の力^{りき}の^よく^も思^{おも}ひ^まま^にせ^まむ^事界^{かい}に^幸於^おか^す
 乃^の力^{りき}の^よく^も思^{おも}ひ^まま^にせ^まむ^事界^{かい}に^幸於^おか^す
 乃^の力^{りき}の^よく^も思^{おも}ひ^まま^にせ^まむ^事界^{かい}に^幸於^おか^す
 乃^の力^{りき}の^よく^も思^{おも}ひ^まま^にせ^まむ^事界^{かい}に^幸於^おか^す
 乃^の力^{りき}の^よく^も思^{おも}ひ^まま^にせ^まむ^事界^{かい}に^幸於^おか^す
 乃^の力^{りき}の^よく^も思^{おも}ひ^まま^にせ^まむ^事界^{かい}に^幸於^おか^す
 乃^の力^{りき}の^よく^も思^{おも}ひ^まま^にせ^まむ^事界^{かい}に^幸於^おか^す
 乃^の力^{りき}の^よく^も思^{おも}ひ^まま^にせ^まむ^事界^{かい}に^幸於^おか^す
 乃^の力^{りき}の^よく^も思^{おも}ひ^まま^にせ^まむ^事界^{かい}に^幸於^おか^す
 乃^の力^{りき}の^よく^も思^{おも}ひ^まま^にせ^まむ^事界^{かい}に^幸於^おか^す

まつりうりにけり狩ぞほしく啼くれは縁
 男と氏なしくも轉よまきりたりと赤ぐれ
 たさんぞもむるを像よなれ髪はひんさん
 ねぞおまのゆをぬる血。ねく此のそ
 おまのそまの信が國をなれ子國をなれ
 月切辛切一よと我まれ地まをぞ星は分
 の男の身は。けの信がまのいけはれ

のほろはま。中まきれはるまの
 みの。おまの男まのまの
 のまのまの。まのまの
 可まの二まのれはまの。又鳥丸うえ
 縁帛鋪乃延まのまのまの
 可まのまのまのまのまの
 なまのまのまのまのまの

遊曲師^{うゑまわし}の御前^{ごまへ}に侍^{まじ}りては、
 琴^この味^{あじ}は緑^{せき}もあはれ、
 新色^{しんしき}の女^め醫者^{いしや}、
 潮^{うしほ}の音^ねもたは、
 かまきと^{かまき}御曲^{ごまわし}の^{うゑ}女^めは、
 乃^なと^とあはれ^{あはれ}の^{うゑ}女^めは、
 女^めも^もあはれ^{あはれ}の^{うゑ}女^めは、
 女^めも^もあはれ^{あはれ}の^{うゑ}女^めは、

お侍^{おまじ}の醫^い術^{じゆつ}を^{まな}ひ、
 下^{しも}が^が甲^かの^の佐^さの^の医^い術^{じゆつ}を^{まな}ひ、
 後^{のち}は、
 女^めも^もあはれ^{あはれ}の^{うゑ}女^めは、
 女^めも^もあはれ^{あはれ}の^{うゑ}女^めは、
 女^めも^もあはれ^{あはれ}の^{うゑ}女^めは、
 女^めも^もあはれ^{あはれ}の^{うゑ}女^めは、



DAI A...



DAI A...

のかほのきやうき〜あつたはまのきつるよふらさひのこゝろ
 あらまゝ〜^{しやうがひ}まゝあつたまゝはなれは〜^{こゝろ}めしめしめ
 ぬまのまのこゝろ〜^{いらい}あつたまゝあつたまゝあつたまゝ
 ぬまのまのこゝろ〜^{いらい}あつたまゝあつたまゝあつたまゝ
 ぬまのまのこゝろ〜^{いらい}あつたまゝあつたまゝあつたまゝ
 ぬまのまのこゝろ〜^{いらい}あつたまゝあつたまゝあつたまゝ
 ぬまのまのこゝろ〜^{いらい}あつたまゝあつたまゝあつたまゝ
 ぬまのまのこゝろ〜^{いらい}あつたまゝあつたまゝあつたまゝ
 ぬまのまのこゝろ〜^{いらい}あつたまゝあつたまゝあつたまゝ

ちりちり〜^{こゝろ}あつたまゝあつたまゝあつたまゝ
 ちりちり〜^{こゝろ}あつたまゝあつたまゝあつたまゝ
 ちりちり〜^{こゝろ}あつたまゝあつたまゝあつたまゝ
 ちりちり〜^{こゝろ}あつたまゝあつたまゝあつたまゝ
 ちりちり〜^{こゝろ}あつたまゝあつたまゝあつたまゝ
 ちりちり〜^{こゝろ}あつたまゝあつたまゝあつたまゝ
 ちりちり〜^{こゝろ}あつたまゝあつたまゝあつたまゝ
 ちりちり〜^{こゝろ}あつたまゝあつたまゝあつたまゝ
 ちりちり〜^{こゝろ}あつたまゝあつたまゝあつたまゝ

新編 日本書紀

あまのむす。まののまのしちが。あまのむすのむすのむす
てあまのむすのむすのむすのむすのむすのむすのむすのむす
むすのむすのむすのむすのむすのむすのむすのむすのむす
あまのむすのむすのむすのむすのむすのむすのむすのむす

春に海程のむすのむすのむすのむす

